

【境港市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。

本市の小・中学校においては、それぞれの学校や児童生徒の実態等に応じ、GIGAスクール構想により整備されたICT環境のもと、研修や授業研究を行い1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を図ってきた。今後、GIGAスクール構想第2期に向けて、次のような児童生徒の学びの姿を目指していく。

「個別最適な学び」の実現において、ICT環境を活用することで得られる児童生徒の情報から、それぞれの実態を把握し、個々の特性や学習進度に合った指導を行うとともに、児童生徒は1人1台端末を通じて、主体的に自分に合った学習を選択し、学びを進めていくものとする。

「協働的な学び」の実現においては、ICT環境を活用する中で、児童生徒が他の児童生徒や地域の方々とつながり、課題解決に取り組む機会をより増やしていくことで様々な考え方に触れることにより、多様性を尊重し、協働して課題を解決できる能力を育成していくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

本市はGIGAスクール構想のもと、令和2年度に児童生徒の1人1台端末の整備を行い、学校における通信ネットワークを整備し、周辺機器等も含めたICT環境の整備は完了している。

通信ネットワークに関しては、文部科学省の推奨帯域速度が確保されていない状況にあり、今後の改善が必要である。

ICT環境の整備により各学校において端末活用が進み、デジタル教材の活用や協働学習ツールを使用し、学習活動を行っている。

ICT環境の整備に加え、本市では、ICT支援員を配置することにより、教職員の端末活用能力の底上げや活用の拡大を図った。

研修やICT支援員の配置により改善してきてはいるが、依然として端末活用については教員間の格差が課題となっている。また、生成AIの活用等、新たに登場した技術への対応ができていないことから、これらの活用や体制整備が今後の課題となっている。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、令和8年度に端末の更新を計画しており、更新にあたり各学校及び関係各課が連携しながら更新作業を進めていく予定である。さらに、ICT支援員の配置やネットワークアセスメントを行うことで、児童生徒にとって充実した1人1台端末環境を維持していくことを目指していく。

これらICT環境の充実を前提とし、今後の利活用方策として以下の取り組みを進める。

（1）1人1台端末の積極的な活用について

1人1台端末を効果的に活用するため、AIドリル等のツールを有効活用し、効果的な学習を推進する。また、専門的知識を備えているICT支援員を継続的に配置することにより、ICT活用を推進するとともに、先進事例等の情報を取り入れていく。

（2）個別最適・協働的な学びの充実について

個別最適な学びと協働的な学びをより充実させるため、AIドリルをはじめとしたツールを効果的に活用することにより、個々の特性や学習進度に合った指導と自発的に自身に合った学習を行う児童

生徒の育成を促進していく。また、ＩＣＴの活用を行う中で、校内に留まらず様々な場面で多くの人々と交流する機会を作り、様々な考え方に触れることで、他社の考えを尊重しながら協働して課題を解決していく能力を育成する。

(3) 全ての児童生徒への学びの保障について

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び支援が必要な児童生徒等に対し、１人１台端末を活用することで学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒の学習機会を確保していく。

また、オンライン学習の充実や、児童生徒の思いや実態に応じ、児童生徒が自ら選択し、主体的な学習を進めるためにＡＩドリル等の整備を継続することで、学習の効果を高める取り組みを行う。